

消防士 井狩寛人

『これからの地域防災』

今年7月、岡山県や広島県を中心に甚大な被害をもたらした西日本豪雨で、多くの逃げ遅れが発生したことを受け、自分の住む街で導入されている「避難行動要支援者支援制度」に着目した。

この制度は、避難支援が必要な方に対し、自治会が協力し避難支援について個人計画を作成し、災害時に実行するというものでした。

現状を把握するため市担当者から話を聞くも、個別計画を作成されている避難行動要支援者の数の少なさを知り、何とかしなければという思いから、秋の火災予防運動中に実施された住宅防火訪問をヒントに「地域防災訪問」を提案した。

これは、避難支援が必要な方の家を計画的に訪問し、その人にあつた持ち出し物品チェックリストの作成や地図を使って避難経路や避難場所の確認を一緒に行うもので、避難準備を万全にするだけでなく、市町の担当課と情報共有することで、地域全体で避難行動要支援者をサポートする体制を構築することを目的としています。

地域防災において最も重要なことは、地域住民と消防職員が直接顔を合わせ、共に防災について考えることこそ真の地域防災であると発表した。